

絶滅危惧類 キク科

エゾノコギリソウ

Achillea ptarmica L. subsp. *Macrocephala* (Ruprecht) Heimerl

【選定根拠】 全ての生育地で生育条件が悪化

【形態】 北地の草原に生える多年草。茎は高さ10～85cm、葉は長楕円形から披針状線形で、長さ3～7cm、幅5～11mm、細かい鋸歯があり、基部はなかば茎を抱く。花は7～8月に咲き、頭花は散房状につく。総苞は半球形、長さ5mm、密に絹毛がある。片は2列に並び、長楕円形で外片は短い。舌花状は2列に並び12～19個ある。そう果の長さは2mm。

【分布】 本州中部以北、北海道、千島、樺太、カムチャッカ、シベリヤ東部に分布する。

【県内の分布、生育状況】 いわき市の砂浜に分布する。

【生育に影響を与えている要因】 産地局限、遷移進行

【特記事項】 生育地である海岸を良好な環境で保全することが望ましい。

【主要文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫．1981．日本の野生植物 草本 合弁花類．平凡社．

絶滅危惧類 オモダカ科

トウゴクヘラオモダカ

Alisma rariflorum Samuelsson

【選定根拠】 全ての個体群で個体数が減少 全ての生育地で生育条件が悪化

【形態】 水生または湿地生の植物。草高30～70cm。長い柄のある楕円形の葉を数枚根生する。7～9月、輪生総状花序を直立し、径1～1.5cmの白色花を開く。サジオモダカと誤認されやすいが、葉はサジオモダカより小さい。一方、花弁はサジオモダカよりも大きく、粗大欠刻があることで区別される。多年草。

【分布】 日本特産で、関東地方から東北地方南部を主分布域とする。

【県内の分布、生育状況】 ため池の縁や休耕田に生育する。長沼町、矢吹町、中島村、表郷村、棚倉町、白河市、などに生育していたが、今回の調査では表郷村で確認されたのみである。

【生育に影響を与えている要因】 水質汚濁、土地造成、遷移進行、池沼開発、湿地開発

【特記事項】 汚水の流入を防ぐとともに、池沼・湿地の開発を抑制する。湿原や休耕田では、乾燥化を防ぐとともに高茎草本を除去して、植生遷移の進行を抑えることが望ましい。

【主要文献】

薄葉 満．1985．福島県の興味ある水生植物．フロラ福島4：27-32．

